第 1 回 みちのおくの芸術祭 2026「やまのひかり」が 11/5(木)から開幕！
山形美術館を主会場に、誰もが参加でき、山形の創造性を体感できる 11 日間

東北芸術工科大学（山形市上桜田／学長：中山ダイスケ）は、今回初開催となる、第 1 回みちのおくの芸術祭 2026「やまのひかり」を 11 月 5 日（木）から 15 日（日）に山形美術館を主会場に開催します。

2014 年から開催してきた「山形ビエンナーレ」の成果を受け継ぎ、地域の芸術振興を目的として、今回は「やまのひかり」をテーマに、山形ならではの創造活動の多様性や可能性を、さまざまな形で体感できる芸術祭です。「誰もが参加できる芸術祭」として、アーティストと市民の作品が同じ場に並ぶ山形美術館内での作品展示のほか、マルシェや踊り・演劇・パフォーマンス・ワークショップなど、山形の歴史・風土の中で生まれたさまざまなクリエイティブな取り組みによって、山形の未来に向けた創造力の「光」を発見・共有いただきます。

企画運営は本学の教職員が担い、多くのインターン学生も運営に参加します。また、初日の 11 月 5 日（木）には、13 時から山形美術館で芸術祭企画担当教員による「展示作品の現地解説会」を行います（取材いただける場合は、別紙にて事前にご連絡ください）。つきましては、本取り組みを多くの皆様に知っていただきたく、ぜひ取材・広報のお願いを申し上げます。

■第 1 回 みちのおくの芸術祭 2026 「やまのひかり」　開催概要

会期：2026 年 11 月 5 日（木）～15 日（日）　※休館日・開催時間は会場によって異なります
会場：山形美術館、美術館前スクエア、やまがたクリエイティブシティセンターQ1（THE LOCAL、famAA）
内容：作品展示、マルシェイベント、踊り、演劇、パフォーマンス、ワークショップ 等
入場：無料（一部有料あり）
ディレクター：加藤絵美（基盤教育研究センター 専任講師）、小金沢智（美術科 日本画コース 准教授／美術館大学センター研究員）、三瀬夏之介（美術科 日本画コース 教授／美術館大学センター長）、宮本晶朗（歴史遺産学科 文化財保存修復コース 准教授／美術館大学センター研究員）、森一貴（企画構想学科 地域デザインコース 専任講師）※五十音順
Web サイト：https://michigei.tuad.ac.jp/
※詳しくは、別紙の「注目ポイント」と Web サイトをご覧ください。

■展示作品 現地解説会

日時・場所：11 月 5 日（木）13 時～山形美術館
内容：本学の芸術祭企画担当教員（ディレクター）による展示作品の説明

※取材いただける場合には、別紙の取材申込書にて事前のお申し込みをお願いします。

みちのおくの芸術祭 2026

「展示作品 現地解説会」

11 月 5 日（木）13 時～

（会場：山形美術館）

取材申込書

FAX：023-627-2081

貴社名 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

代表者氏名 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

携帯番号 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

メールアドレス ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿@＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

参加人数 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿（人）

「現地解説会」以外の取材希望については、下記までお問い合わせをお願いします。

■本件に関する問い合わせ先

東北芸術工科大学　地域連携推進課（担当：高橋）　TEL. 023-627-2218（平日 9:00～17:15）

配信元: 東北芸術工科大学 法人企画広報課 TEL:023-627-2246 E-mail:public@aga.tuad.ac.jp

注目ポイント①

100 点以上の創造の“ひかり”に出会う！ 市民公募 BOX アート展「やまのひかり」

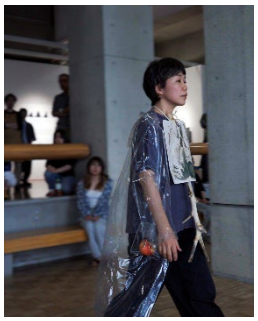
市民や山形ゆかりの方々から公募した、今回の芸術祭のテーマ「やまのひかり」に沿う 100 点以上の作品を展示します。BOX（2 種類。縦・横・奥行が 30cm 又は 60cm）の中で、作者それぞれが、自分の想う「やまのひかり」を作品に込めて表現します。
作者と鑑賞者一人ひとりの創造力・想像力、そして感動が、これからの山形を照らす光になります。

木製 BOX　製作：アートエッグ

注目ポイント②

過去～現代までの山形ゆかりのアーティストや、市民アーティストによる素晴らしい芸術表現！

山形を自らの足で歩き、優れた感性により山形の特質や魅力を捉えたアーティストによる本芸術祭のための作品や、市民アーティストによる創作活動のほか、昔から今日に至るまで、才能と創意を発揮した山形ゆかりのアーティスト達による作品群を、会場内で展示します。



大和由佳（参加作家）
写真：早川純一

［参考作品］岡崎直子（参加作家）
2024 年　写真：三浦晴子

注目ポイント③

山形の魅力を再発見する！「みちのおくの市」

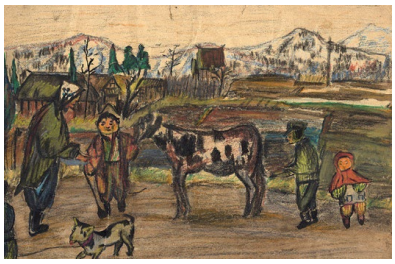
知っているようで知らない、また、知っていてもなかなか味わう・触れる機会が限られる、県内各地の食品・物品・書籍店等に、会場装飾が加えられた美術館前スクエアで出会い・味わうことができます（購入は有料）。

注目ポイント④

これまでの、山形ゆかりのアート潮流に触れられる、貴重な作品群の展示

近代工芸・デザインに大きな役割を果たした置賜出身のクラフトデザイナー 芳武茂介（よしたけ・もすけ）の作品群や、昭和初期の想画教育日本三大校の一つとして位置づけられる東根市長瀞小学校の「長瀞想画」など、これまでの山形ゆかりの特筆すべき文化活動をご紹介します。

芳武茂介



長瀞想画：
小野朝男《早春の野辺》

注目ポイント⑤

山形に住まう方々の、日々の物語から生まれた演劇公演

文筆家の五所純子さんが、山形を訪れ、山形に住まう人々から取材をして創作した戯曲を、舞台人たちの支援を得て初上演いたします。日常の私たちの「暮らし」が「作品」として昇華し、目の前で上演される貴重な瞬間に立ち会えます。

文筆家 五所純子

注目ポイント⑥

「ダイバーシティ（多様性）＆アクセシビリティ（近づきやすさ）」
誰もが参加できる芸術祭！

変化し続ける社会のなかで、これからの山形・地域はどうあるべきか？というテーマに、数百年にわたり継承されてきた獅子踊り等を通して自然との共生や文化継承の有り方を問います。また、美術館とのふれあい方など、鑑賞ツアーやワークショップを通じて体感的に理解できます。

鹿楽招旭踊
写真：伊藤美香子

民話がたりワークショップ

［開催概要］

光はここに　山形

東日本大震災を経て、東北芸術工科大学が2014年9月以来、合計6回にわたり開催してきた「みちのおくの芸術祭　山形ビエンナーレ」は、2年に一度のビエンナーレ形式での開催に幕を閉じ、「みちのおくの芸術祭」を正式名称とする持続可能な芸術祭として新たに生まれ変わります。

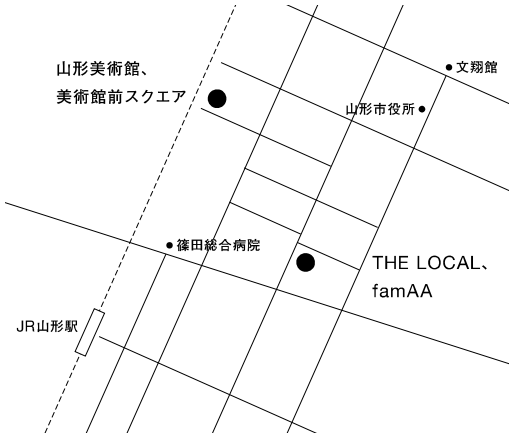
山形県は2025年5月、1920年以来105年ぶりに人口100万人を下回り、厳しい人口減少の時代を迎えています。いっぽう、神武景気から不況への変動期であった1957年11月、山形市は「山形市民の歌」を制定。その作詞を担当した山形県生まれの詩人・神保光太郎は、大きな希望をこめるように、「光はここに　山形」というフレーズを歌の中で繰り返しました。そこから導き出されたのが、今回のテーマである「やまのひかり」です。

メイン会場の山形美術館では、さまざまなジャンルのアーティストが山形を訪れ制作した作品と、この土地の魅力を知る市民の皆さまの作品がともに展示され、前庭である美術館前スクエアでは、毎週末、山形各地から食や手仕事のマーケットが集まり、山形にまつわるパフォーマンスや演劇などが行われます。

2026年は、置賜県・山形県・鶴岡県の3県統合150周年という記念すべき年です。山形全般の風土、そしてここに住まう人々が持っている創造の力を礎にして行われる芸術祭の第1回に、皆さまぜひご来場ください。

後援：山形県、山形市、山形県教育委員会、山形市教育委員会
協賛：株式会社きんでん、羽陽建設株式会社、株式会社フロット、株式会社とみひろ、富士フイルムBI山形株式会社、株式会社本間利雄設計事務所、山形トヨタ自動車株式会社、山形パナソニック株式会社、株式会社ヤマコン、株式会社KOEI、山形信用金庫
協力：公益財団法人山形美術館、多摩美術大学アートとデザインの人類学研究所、伝承文化支援研究センター、長瀞小学校想画を語る会、やまがたアートサポートセンターら・ら・ら、株式会社アートエッグ
ディレクター：加藤絵美（東北芸術工科大学専任講師）、小金沢智（東北芸術工科大学准教授、美術館大学センター研究員）、三瀬夏之介（東北芸術工科大学教授、美術館大学センター長）、宮本晶朗（東北芸術工科大学准教授、美術館大学センター研究員）、森一貴（東北芸術工科大学専任講師）
アートディレクター：杉の下意匠室

［会場・開催日時・アクセス］



山形美術館
11/5（木）～15（日）10:00-17:00（入館は16:30まで）
休館日：11/9（月）
山形市大手町1-63　JR山形駅（東口）から徒歩15分
※美術館1階の収蔵品展は有料です

美術館前スクエア
11/7（土）、8（日）、14（土）、15（日）
山形市大手町1-1　JR山形駅（東口）から徒歩15分

THE LOCAL TUAD ART GALLERY
11/5（木）～15（日）10:00-19:00
休廊日：11/9（月）
山形市本町1-5-19やまがたクリエイティブシティセンターQ1 1-G
JR山形駅（東口）から徒歩15分、ベニちゃんバス「本町・Q1」停留所から徒歩3分

famAA
11/5（木）～15（日）10:00-19:00
休廊日：11/9（月）
山形市本町1-5-19やまがたクリエイティブシティセンターQ1 1-H
JR山形駅（東口）から徒歩15分、ベニちゃんバス「本町・Q1」停留所から徒歩3分

［お問い合わせ］
東北芸術工科大学 みちのおくの芸術祭事務局
〒990-9530　山形県山形市上桜田3-4-5　023-627-2218
最新情報はWebサイト、SNSからご確認ください

Webサイト　Instagram　X

みちのおくの芸術祭

第1回　2026

100のひかり
アメフラシ＋Kosyau
生西康典
石倉敏明
稲葉まり
遠藤英則
遠藤ふみ
岡崎直子
岡澤喜久枝
小駒豪
小山薫子
建築ダウナーズ
亀山博之
鹿楽招旭踊保存会
鹿楽招旭踊継承会
＋伊藤美香子
川村恵理
菊地翼
草薙裕
現代山形考
五所純子
こねる＋砂連尾理
斎藤二良＋片桐咲希
桜井浜江
佐々瞬

佐藤朝山
酒井恒太
渋谷剛史
新海覚雄
新海宗慶
新海竹太郎

新海竹蔵
管啓次郎
スガノサカエ＋halken
square4
梓山獅子踊保存会（下組）
多賀糸尊
高嶋祥光
高橋由一

地主悌助
東北画は可能か？
東北デ、
富川岳
ドラムサークル研究所
長沢明
長瀞想画
奈良村正史
新雪調
萩野鹿子踊保存会
橋本貞秀
長谷川竹葉
久松知子
笛吹メルン
増田拓史
松田俊介
山形張子・岩城勇二
大和由佳
芳武茂介
渡辺大輔
渡部豊子

MICHINOOKU ART FESTIVAL

TOHOKU UNIVERSITY OF ART & DESIGN

michigei.tuad.ac.jp

2026/11/5（木）～15（日）

山形美術館、美術館前スクエア、THE LOCAL、famAA

入場無料（一部のイベント、山形美術館収蔵品展は有料）

主催：東北芸術工科大学

山形美術館

「光はここに　山形」。1957年11月、詩人・神保光太郎が「山形市民の歌」でそう作詞する79年前、イギリスからひとりの女性旅行者が山形を訪れ、その模様はのちに旅行記として出版され、大きな反響を呼びました。本展は、英国人紀行作家イザベラ・バードの『日本奥地紀行』（1880年）を手掛かりに、バードが当時歩いた道を辿るところから始まります。そして、山形の外から、山形の中（みちのおく）へ――。会場には、現在のアーティストが山形の各地を訪れ取材した作品、山形と関わりのある古今の美術作品・資料等とともに、山形を中心に居住し、創造的な表現をしている人たちのさまざまな作品・仕事が並びます。「山形市民の歌」に導かれ、「プロローグ：やまの道」「第1章：やまの風土」「第2章：やまのまち・人」「第3章：やまの未来」「エピローグ：やまのひかり～新しい郷土史を作る～」の5章構成で、山形県の3県統合150周年の2026年における「やまのひかり」を表現します。

参加作家：[2階]100のひかり（市民公募BOXアート展）、アメフラシ＋Kosyau、遠藤英則、岡崎直子、岡澤喜久枝、草彅裕、佐藤朝山、新海宗慶、新海竹太郎、新海竹蔵、管啓次郎、増田拓史、山形張子・岩城勇二、大和由佳、芳武茂介、渡辺大輔、他　[3階]100のひかり（市民公募BOXアート展）、亀山博之、鹿楽招旭踊継承会＋伊藤美香子、現代山形考、斎藤二良＋片桐咲希、佐々瞬、渋谷剛史、スガノサカエ＋halken、square4、多賀糸尊、東北画は可能か？、長瀞想画、新雪調（軽部望、成瀬正憲、樋口修、星川一宏、森一貴、吉野敏充）、松田俊介、久松知子、笛吹メルン（雨宮庸介、坂本大三郎、椹木野衣、砂守かずら、三瀬夏之介）

アメフラシ（かないがみほうきのこと）（油性ペン、岩絵具、アクリル、綿布、木製パネル）2018年

佐々瞬（土の買取屋）2026年

[参考作品]岡崎直子　2024年　写真：三浦晴子

市民公募BOXアート展（100のひかり）

[参考作品]増田拓史（Oe-Yamagata -7.40 PM）2016年

鹿楽招旭踊継承会＋伊藤美香子

[参考作品]大和由佳（VINELAND）展示風景（山形ビエンナーレ2024出品作品／山形市蔵王体育館）写真：三浦晴子

東北画は可能か？（月屋国）2024年～　写真：三浦晴子

美術館前スクエア

美術館前スクエアは、二度の週末に出現する、まちにひらかれた芸術祭のエントランスです。山形各地から集った食や手仕事のマーケットや、山形・東北のシシ踊り団体が集う「シシと視点」、多様な人々が即興で音を重ねるドラムサークルなどのプログラムを通じて、芸術祭における対話や関与を模索します。通底するテーマは「post-human(ity)」。山形は長きにわたって、雪や山、獣をはじめとする人間ならざるものたちと共在してきた地です。この地で異種と「ともにある」とはどういうことなのでしょう。そしてまた、人間の意図や意志のあらわれを超えて、協働的で偶発的に「つくる」とはいかなる営みなのでしょうか。美術館前スクエアでは、訪れる多様な人々の視点を持ち寄りながら、この二つの問いについて探索していきます。

参加作家：石倉敏明、稲葉まり、鹿楽招旭踊保存会、建築ダウナーズ、こねるダンス部＋砂連尾理、酒井恒太、梓山獅子踊保存会（下組）、東北デ、（澁谷和之、吉野敏充）＋東北芸術工科大学（企画構想学科、下枝浩徳）、富川岳、ドラムサークル研究所、萩野鹿子踊保存会、松田俊介、渡部豊子、およびマーケット出店者の皆さま

ドラムサークル研究所

山から福がおりてくる

建築ダウナーズ

[参考作品]こねるダンス部＋砂連尾理 山形ビエンナーレ2022 まちのおくゆき ダンスパフォーマンス「さわる／ふれる」（演出・構成：砂連尾理）写真：三浦晴子

[連動企画]

メイン会場の山形美術館から徒歩圏内の「やまがたクリエイティブシティセンター Q1」にある2つのギャラリーでは、芸術祭期間中、連動企画を展開します。

THE LOCAL TUAD ART GALLERY

フォトグラファー川村恵理が、2023年11月から5度にわたって踏み入れた〈未知の地、山形〉の記録。webメディア『real local 山形』で2024年3月から2025年8月まで毎月発表された作品群をあらたに再構成し展示。同名の写真集（通常版・特装版）も会場で販売します。

参加作家：川村恵理

famAA

日本画家・長沢明が絵を担当した絵本『おそとねこ』（文・立木寛子）の原画展示。飼い主の都合で突然、外暮らしを余儀なくされた猫（＝おそとねこ）たちの声なき声を、長沢が力強くも温かい絵でダイナミックに表現しました。会場では絵本や特製ポスターなども販売します。

参加作家：長沢明

[関連イベント]

いずれも参加費無料（マーケットでの飲食・物品購入は有料）。予定変更の可能性がありますので、詳細はWebサイト、SNSをご覧ください。

〈マーケット〉

みちのおくの市

日時：11/7（土）、8（日）、14（土）、15（日）
10:00-17:00
会場：美術館前スクエア
出店：[11/7、8]沢原（さわら）はけごの会、山から福がおりてくる、リンゴりらっぱ醸造所、ほか　[11/14、15]調香菜 Umui、河童ブックス、HAVE A GOOD SLICE、ペンギン文庫、LAZY BOOKS、ほか
内容：山形各地から、食や農、手仕事やクラフト、本やZINEをテーマに掲げる商店街が二度の週末限定で登場します。

〈トーク〉〈パフォーマンス〉〈ワークショップ〉

シシと視点

鹿楽招旭踊保存会　写真：伊藤美香子

日時：11/7（土）13:30-15:00、
11/14（土）13:30-16:00
会場：美術館前スクエア
出演：[11/7]鹿楽招旭踊保存会、松田俊介　[11/14]石倉敏明、梓山獅子踊保存会（下組）、富川岳、萩野鹿子踊保存会
内容：県内各地から集うシシ踊り団体の舞いを披露するほか、石倉敏明氏、富川岳氏、松田俊介氏や、継承に尽力する学生たちを迎え、シシ踊りの発信・継承の可能性や、「シシになる」ことの意味を探るトークイベントを開催します。

〈パフォーマンス〉〈ワークショップ〉

こねるダンス部＋砂連尾理

2025交流ワークショップ　写真：伊藤美香子

日時：11/8（日）11:30-12:30
会場：美術館前スクエア
出演：こねるダンス部＋砂連尾理
内容：一般社団法人こねる・ダンス部のメンバーが出演し、振付家／ダンサーの砂連尾理氏を迎えてワークショップを実施します。美術館の作品や芸術祭の作品からダンス部メンバーが振りを作ったものをベースに、参加者と一緒に行進し、即興ダンスを演じます。

〈ワークショップ〉

民話がたり

日時：11/8（日）14:30-15:10
会場：美術館前スクエア
出演：稲葉まり、渡部豊子
内容：最上・新庄の民話を、人形劇とともに演じます。「狐に化かされなくなった」時代、民話を語る／聞く機会は失われ続けています。本企画を通じ、口伝えに継承されてきた「生きる民俗文化」を捉え直します。

〈演劇〉〈ワークショップ〉

山象（やまかだち）のひかり

日時：11/10（火）～15（日）　各日15:30
会場：美術館2階ロビー
制作・出演：生西康典、遠藤ふみ、菊地翼、小駒豪、小山薫子、五所純子
定員：各回30名程度
内容：本企画は、戯曲を市民の方々とともに上演する、ワークショップ型演劇です。文筆家・五所純子さんが山形在住の方々に聞き取りを行い、その内容をもとに戯曲を執筆します。

〈ワークショップ〉

ドラムサークル

日時：11/15（日）11:00-11:30、14:30-15:00
会場：美術館前スクエア
出演：ドラムサークル研究所
内容：ドラムサークルは、参加者が輪になり、即興的につくりあげる打楽器のアンサンブルです。誰が演じ、誰が聞くのかという境界が曖昧になるプロセスから、参加・協働としての音楽のありかたを探索します。

〈トーク〉

ディレクターズトーク

日時：11/15（日）16:00-17:00
会場：美術館前スクエア
出演：加藤絵美、小金沢智、三瀬夏之介、宮本晶朗、森一貴
内容：みちのおくの芸術祭ディレクター陣によるクロージングトークです。名称を新たに再スタートを切った「みちのおくの芸術祭」。そこで見えてきた「やまのひかり」とはなんだったのでしょうか？

〈鑑賞プログラム〉

みんなの美術館

日時：Webサイトにてお知らせ
会場：美術館2・3階展示室
内容：美術館はハードルが高い、というイメージを取り払って、もっとフラットな場にしたいと考えているのが本プログラムです。会期中、東北芸術工科大学のディレクターやインターン生などによるおしゃべり鑑賞ツアー、QRコードを用いた音声による作品鑑賞などを実施します。「みんなの美術館」を通して、みち芸と美術館をお楽しみください。

〈みち芸インターン生関連企画〉

辺境という都市

日時：11/5（木）、6（金）9:00-17:00
会場：backyard（山形市香澄町1-11-18 Day&Coffee山形駅前本店裏）　料金：投げ銭制
内容：古都・平城京から、みちのおくの終着点・多賀城へ。古代に都から東北へ贈られた絹の縄を手がかりに、空想の東山道を紐と映像によるインスタレーションとして描き出します。
instagram.com/toinows._.curatorial

〈みち芸インターン生関連企画〉

みちくさ ART WALK

日時：11/13（金）～15（日）12:00-19:00
会場：①古民家Heso（山形市鳥居ヶ丘1-5）、②Art Space 未（山形市小白川1-2-10）、③ポポルポの家（山形市東原町3-7-25）
内容：かつて「やまのほう」と名づけられた山形という地で、「みちくさ」として集う3つのギャラリー。それぞれが育ててきた活動を持ち寄り、新たな営みが生まれる場をひらきます。
instagram.com/michikusa_artwalk